



見掛けたら優しく対応

認知症の人保護へ訓練

燕

外出して自宅に戻れなくなった認知症の人を捜して保護する訓練が2日、燕市の分水地域で行われた。地域住民ら約100人が、徘徊する患者に対する声の掛け方や見守り方を学んだ。分水小学校区まちづくり協議会が2014年度に始め、3回目の活動。燕市では15年、一時的に行方不明になった認知症の高齢者ら

が17人いた。市の防災無線で不明者の情報を提供し、住民らに捜索の協力を呼び掛けたケースもあった。訓練では、福祉施設の職員が「驚かせない、急がせない、自尊心を傷つけない」と、認知症の人と接するときの心構えを説明した。グループに分かれた参加者は実際にまちに出て、行方不明になった認知症患者

役を捜索した。患者役を見つけると「どこにいくんだね」と話し掛け、「暑いからいったん座るかね」などと落ち着かせる言葉を掛けた。初めて訓練に参加した燕市横田の自営業、丸山裕子さん(51)は「失礼になるのではないかと思う、声を掛けるタイミングが難しかった」と話した。写真⇨地域住民らが参加した認知症の人を捜索し、声を掛ける訓練(2日、燕市)

集客図る

【長岡市】長岡市は、観光客の増加を図るため、市内各地に観光バスを誘導する「観光バス誘導マップ」を作成した。このマップは、市内の観光名所や宿泊施設、飲食店などを紹介し、観光客の利便性を高めることを目的としている。また、市内の観光資源を効果的に活用し、観光客の滞在時間を長くさせるための施策も検討されている。

【燕市】燕市は、認知症の高齢者を支援するため、市内各地に「認知症サポーター」を養成している。このサポーターは、認知症の高齢者を発見した場合、適切な対応を行う役割を担っている。また、市内の認知症の高齢者を支援するための施設やサービスも充実している。

【長岡市】長岡市は、市内各地に観光バスを誘導する「観光バス誘導マップ」を作成した。このマップは、市内の観光名所や宿泊施設、飲食店などを紹介し、観光客の利便性を高めることを目的としている。また、市内の観光資源を効果的に活用し、観光客の滞在時間を長くさせるための施策も検討されている。